

Obituary of the Late Mr. Kin-ichi ABE

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kinoshita, Satoru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055693

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



学的にいて区別されないが、おなじ特徴の見られるものがあり、変異の多い植物ではその傾向がことにいちじるしい。低木ではシモツケがドロノシモツケ、イブキシモツケがホソバイブキシモツケ、キハギがホソバキハギ、ツゲがコツゲ、ヒサカキがホソバヒサカキの形になるのはそれである。

こうした違いは、地理的な分布とはほとんど関係ないが、なかには本州中部地方以北の山地のイワシモツケ、紀伊半島の超塩基性岩地帯のキイシモツケ、四国の河岸のトサシモツケのような例もある(山中, 1973)。

河岸での狭葉は、すでにいわれているように、おもに水の流れとそれによる機械的な損傷に対する適応と抵抗が、最も大きな要因であることはいうまでもない。

ただ、熱帯や亜熱帯よりは増水の影響の少ない温帯では、河岸の岩上の植物に、常時の乾燥や貧養との関係を見逃すできない(山中・竹崎, 1959)。それは、ススキ、トグシバなどがよく出現することでも明らかである。狭葉の植物は、岩石地では超塩基性岩地帯のように、流水とは無関係に生ずることがある。日本の温帯の河岸や河床の岩上には、乾生的な植物が少なくない。こうした事実を念頭において、多方面からの研究が、これから必要になってくると思う。

引用文献

- HATUSIMA, S. 1976. Stenophyllism in Japan. *Biol. Mag. Okinawa* 14: 7-13.
- 岩槻邦男. 1979. 陸上植物の種. 152 pp. 東京大学出版会.
- (編). 1992. 日本の野生植物 シダ. 311 pp. 平凡社, 東京.
- 加藤雅啓. 1992. 溪流沿い植物の熱帯における多様性, 形態進化と適応. *Plant Morphology* 3: 1-3.
- 南川 幸. 1963. 矢作川水系河原植物群落の群落生態学的研究. 矢作川の自然. 188-250.
- 森下和男・山中二男. 1956. トサシモツケの分布と生態. *日生態会誌* 6: 50-53.
- 中西 哲. 1956. 峡谷植物群落の分布について. *広島大学生物学会誌* 7(1): 30-38.
- STEENIS, C. G. G. J. VAN 1981. Rheophytes of the World. 407pp. Sijthoff & Noordhoff, Alphen aan den Rijn.
- 山中二男. 1973. イワシモツケ類について. *高知大学学術研究報告(自然科学)* 21: 159-168.
- ・竹崎恵子. 1959. キシツツジの分布と生態 川岸岩上の植生とフロラ. *植研雑* 34: 215-224. (received November 18, 1992; accepted February 9, 1993)

木下 覚: 阿部近一氏のご逝去を悼む Satoru KINOSHITA: Obituary of the Late Mr. Kin-ichi ABE
阿部近一氏は1993年2月8日の早暁に亡くなられた。享年84歳であった。

氏が徳島県の植物についての研究を始められたのは昭和5年頃からとお聞きした。当時は現在のように交通機関も発達していない時代であったにもかかわらず、県下の山野、海岸、離島をはじめ当時は霊山幽谷とよばれ、修験者しか立ち入らなかつた剣山や石立山などをも苦難の末に次々と調査されたこと、研究する文献も無かつたため、採集された植物標本を柳行李にいっぱい詰めて、牧野富太郎先生を訪ねたこと、タヌキノシヨクダイを大竜寺の石灰地で発見されたときのことなど、植物調査等で共に宿泊した時には氏の苦労話や思い出話に聞き入り、時の経つのも忘れることが常であった。

氏の研究は植物に限らず、徳島県に生息する鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類等にも及び、カモシカの生息調査等にも率先して活躍された。また、陸産貝類についての研究に情熱を注がれ、新種を発見するなど、県内の生息状況を明らかにし、それをまとめられた。このように幅の広さと研究の深さは他の追隨を許さず、徳島県の自然についての生き字引的存在であった。そのため、県内だけでなく県外からも氏の指導や助言を求めてたえず研究者の訪問があつた。氏が県文化財保護審議会々長、県環境保全審議会委員等多くの要職を務められ、数々の業績をあげられたことなど数え上げればきりが無い。

徳島県植物誌(1990)を手にとるとき、それが氏の60有余年にわたる研究の集大成であると同時に積年の労苦の結晶であることをひしひしと感じ、氏を知る人は皆その偉大さを思い遣り、ご逝去されたことへの哀惜の念を如何ともし難いにちがいない。

ここに謹んでご冥福をお祈りする次第である。(〒771-03 鳴門市北灘町栗田 Kurita, Kitanada-machi, Naruto 771-03, Japan)